

青山スタンダード科目「日本語初級」における クラスノートの一例

大 澤 恵 利

はじめに

本稿は青山スタンダード科目「日本語初級」クラスにおけるクラスノートの作成経緯とクラスノートを使用した教育実践を報告するものである。また、大学教育における板書、プレゼンテーション、クラスノートの課題について考察する。

1. 効果的な板書のしかた、プレゼンテーション、クラスノートとは

教員養成系学部・大学の教員養成課程では「情報化・機械化の進展で、学校における教材提示の方法も種々試みられるものの、チョークによって黒板上に書く＝板書は、現在に至るまで学習支援の重要なもの」¹と位置づけている。そして、「内容が検討された板書は、生徒のノート整理と直接結びつき、学習内容の理解に影響を与えるもの」²として、学校教員には教育段階、教科ごとに異なる板書技術が求められている。そのため、学校教員を目指す者は必ず板書技術を学ぶことになっている。

一方、「大学の授業は指導要領等に拘束されるものではなく、その内容や方法について担当教員の多様な思想、姿勢、方法等が反映されることが、授業効果の基礎になって」³おり、板書、プレゼンテーションについても制限はない。

渡邊（2003）は、学生による授業評価の分析結果として「板書やプレゼンテーションへの評価が高い授業は、全般的な学生の授業満足度も高くなる傾向がある」⁴と指摘している。

帯広畜産大学大学教育センターは大学教育における板書とプレゼンテーショ

ンの目的を①授業の大きな流れを学生に提示する②今何について授業しているかを学生に示す③授業内容の要点を強調する④授業内容の理解に必要な情報を示す⑤ノートを取るべき情報を学生に示すことであるとし、これらの目的を達成するための最低条件として①板書・プレゼンテーションの内容がすべて学生から見え、判読可能であること②学生が内容を理解し、必要ならノートをとるために十分な時間にわたって板書・プレゼンテーションの内容が提示されていることを挙げている⁵。そうだとすれば、大学教育における板書技術も初中等教育同様、検討されるべきではないだろうか。

2. クラスノートを作成した経緯

2-1 本クラスの概要

筆者が担当する「日本語初級」は本学外国人留学生の必修科目である。「話す」「聞く」活動中心の「日本語初級 A」, 「読む」, 「書く」活動中心の「日本語初級 B」, 「書く」活動中心の「日本語初級 C」の3つのクラスがあり、筆者は昨年度より理工学部1年生対象の「日本語初級 A」および「日本語初級 B」を担当している。初級という名前がついているが、学生は日本語能力試験 N1 レベル（ヨーロッパ言語参照枠の C1 レベル相当）に合格しており、日本語上級者である。本学では日本語履修1年目クラスを便宜的に「初級」と呼んでいる。

2-2 クラスノートを作成した経緯

昨年度ビデオ会議システム（Zoom）を利用したリアルタイム型授業を実施するにあたり、通常授業での板書の代わりになるものはないかと考えた。

筆者は他大学でも学部・大学院留学生・交換留学プログラム生の日本語クラスを担当しており、コロナ禍以前の通常授業では Microsoft 社製プレゼンテーションソフト「Power Point」と板書を併用していた⁶。

しかし、本クラスの情報量を考えるとプレゼンテーションソフトは適さないと考えた。昨年度授業支援の一環として本学情報メディアセンターより Google アカウント（@g.aim.aoyama.ac.jp）を付与されたことから、Google

ドキュメントでクラスノートを作成し、これを本クラスの板書の代わりとすることにした。クラスノートはGoogleドライブに保存し、本学LMS「Course Power」にはリンクを示すのみとした。

3. クラスノートをどのように使ったか

ノートの作り方については、文房具メーカーや手帳メーカーなどから種々の提案があり、人気を集めている。ビジネスマン向けのアイディアノート術も多数ある。また、科学実験においては実験操作手順や実験結果を記録する実験ノート作りが欠かせない。

筆者はそれらの知見も参考にしつつ、本クラスノートを①掲示板②今日の予定と次週の授業予定③授業内容の3構成にしている。

①のスペースでは、今後の予定（定期試験の予定や提出物の締め切り日など）や学内行事等のお知らせ（理工学部「数学と物理のお助け部屋」、国際センター「日本語チャットルーム」、陸上競技部「青トレ」、相模原キャンパス「相模原祭」のお知らせ、宗教センター「クリスマスツリー点火祭」「クリスマス礼拝」「クリスマス献金」など）を掲載している。これらの学内行事は本学ウェブサイトなどで周知されているが、昨年度はオンライン授業を実施していたため、学部1年生の留学生が少しでも本学に親しみを持てるようにと考え掲載した。

◎青山学院宗教センター

①クリスマスツリーオンライン点火祭サイト
<https://aogaku-lightingceremony.jp/> （11月26日から）

②点火祭礼拝 2020年11月27日（金） 青山キャンパス 17:50～
相模原キャンパス 16:40～

③青山学院大学ゴスペルクワイヤ クリスマスコンサート
<https://youtu.be/8-NioHBtzYk>
* 12月5日～1月11日 随時配信

図1 学内行事等のお知らせ（2020年度後期）

今年度は通常授業に戻ったが、話題になればと思い、引き続き掲載している。

②のスペースではその日の授業予定や次週の授業予定を箇条書きで掲載している。

＜前期試験について＞

「日本語初級A-1」前期試験（発表）用ルーブリック評価表_教師採点記入用.docx

- ・課題Ⅰのデータの中から好きなものを選んで口頭発表する
 - *発表メモ（レジュメ）を作る
 - *1人10-15分：発表＋質疑応答
 - *かならず自分の考察を入れること！

図2 定期試験のお知らせ（2021年度前期）

③のスペースでは、言語的なフィードバック（発音、アクセント、新出語彙など）や参考資料のリンクなどを掲載している。また、ディスカッションポイント、学生の意見、まとめを書き込んでいる。

なお、学生にもドキュメントの編集権限を与え、「編集者」として学生が自由に書き込みできるようにしている。「日本語初級B」では読み物の分読を実施しており、前週のうちに担当を決め、学生には自分が担当した部分の内容まとめを書き込ませている。

Google ドキュメントには「提案」機能がある。学生が書いた文章に間違いがあれば、その場で添削している。教員による「提案」を「承認」しなければ添削前の文章はそのままドキュメントに残るので、学生は自分の間違いを後で確認することができる。

リアルタイム型授業を実施した昨年度は、授業中クラスノートを画面共有し、学生がいつでも授業内容を確認できるようにした。

今年度はマルチメディア教室での通常授業を再開することができたので、授業中はクラスノートをスクリーンに投影している。学生は自分のスマートフォン、または持参したPCでクラスノートに書き込みをしている。

気になったところ：高低アクセント、
 促音「っ」(pp/tt/ss/kk)、
 長母音、
 清濁 (t/d, h/p/b, k/g)

おやまが
 あ くいん 青山学院

おやまがくいんだ
 あ いがく 青山学院大学

図3 筆者から学生へのフィードバック (2021年前期)

6月30日 (水)

<今日のききとり> 「サイエンスZERO」(競技用義足)

釣り竿
 弓道(弓)
 登山用のポール
 飛行機

たわむ ⇔ 張る
 n.たわみ

義足で走ることの特徴とは【為末大による解説】
為末大 (ためすえ・だい) 元陸上競技選手、2008年北京オリンピック出場

図4 新出語彙と参考資料のリンク (2021年前期)

きっかけは小さなことだった・小さな蹉跌を見逃さない
 オウム真理教はどうやって若者を洗脳したのか？
 若者はこの時期でいろいろ悩みがあるので、これをきっかけとして、少しずつ宗教の方向に引っ張っていった。また、若者日常の悩みで心の隙間風(すきまかぜ)を捉えて、計画的に若者の人生を狂わせていた。そして、薬物や暴力を使って、人の意識や行動を自由に操った。

洗脳の「下地」にあったものは何か？
 個人情報盗んだみ後、一緒に遊びに行こうを誘われます。そうしてねにすねは、人間関係を作って、計画的に全国の大学から、優秀な人材をスカウトとしていった。有名な芸能人やビデオでしか見られない大家さんに会わせまします。この方法を策略として、これらの若者を洗脳し、精神的にコントロールします。

大澤恵利
 15:44 7月14日
 返信: 「(すきまかぜ)」

大澤恵利
 15:38 7月14日
 返信: 「ります」を「った。」に

図5 ディスカッションポイントと学生の意見(学生による書き込み)、「提案」機能を利用した筆者による添削 (2021年度前期)

4. 学生の反応

4-1 学生アンケートの結果

昨年度後期「授業改善のための学生アンケート」にて「クラスノート (Google ドキュメント) は授業に役に立ちましたか」という個別質問を設定したところ、回答数3のうち、2名が「とても役に立った」、1名が「役に立った」と回答した。今年度もアンケートで同様の個別質問を設定することを考えている。

4-2 ハイフレックス型授業の実施 (2021 年 6 月 9 日)

今年度前期第9回 (6月9日) の授業は予想外の展開となった。同日午前、JR 横浜線の架線事故が発生し、横浜線が運転見合わせとなったのである。筆者は急遽 Zoom のミーティングルームを開設し、ハイブリッド型授業を実施した。実は筆者はこの日学生によるクラスノートへの書き込みを見て、架線事故発生を知った。学生が次々に「電車の運転再開がいつになるか分からないので登校できないが、Zoom で授業に参加できる」と書き込み、ハイブリッド型授業の実施を提案してくれたのである。登校できない3名と教室 (バス通学のため登校に影響がなかった学生1名と筆者) をオンラインで繋いだ。クラスノートは昨年度の授業同様に画面共有し、必要に応じて学生に書き込みをさせた。学生はビデオ会議システムによるリアルタイム型授業に慣れており、全く問題なく授業を実施することができた。

5. クラスノートの課題

今年度本クラスは授業計画通りに通常授業を実施しているが、新型コロナウイルスの感染状況によっては再びオンライン授業に戻る可能性がないとは言えないことから、後期の授業でも引き続き本クラスノートを使用している。

本クラスノートにはまだ改善の余地がある。教師用 PC 画面で見るクラスノートとプロジェクターに投影されたクラスノート、あるいは Zoom の画面共有機能で学生の PC に映しだされるクラスノートとでは見え方が異なる。また、先天性色覚異常は人種間で差があるものの、女性より男性に多いと言われ、色

覚異常があると特定の色で書かれた文字がほとんど読めないという⁷。そのため、文字の色にも注意が必要である。色分けに頼らず、色がなくても理解できるようにクラスノートを心がけなければならない。もちろん色分けだけでなく、字の大きさ、フォント、行間、余白、情報量が適当であるかどうかについて今後も注意深く点検していく必要がある。

板書・プレゼンテーション、クラスノートは教員の思いつきではなく、事前準備に基づき、しっかりとした構成を持ったものであるべきだ。上記の点に留意した板書、プレゼンテーション、クラスノートであれば、学生が授業後にそれらを基に復習したり、試験準備をしたりすることができる。また、教員がそれらを振り返りながら授業そのものを振り返ることで、自身の授業改善にもつながると考えている。

6. おわりに

本稿はコロナ禍での外国語教育の記録の1つである。コロナ禍がなければ、筆者が自身の板書技術について振り返ることも深く考えることもなかっただろう。この記録を通じ、授業科目や授業形態を問わず先生方から様々なご意見や知見を賜うことができれば幸いである。

注

- ¹ 福岡教育大学板書教育プロジェクト編『板書技法と手書き文字文化』, 2008, 木耳社, p.1より抜粋。
- ² 同上
- ³ 帯広畜産大学大学教育センター『授業における板書・プレゼンテーションの留意点』<https://www.obihiro.ac.jp/edu-affairs-presentation> (2021年9月26日閲覧)より抜粋。
- ⁴ 渡邊芳之「学生の授業評価を規定するものはなにか」『帯広畜産大学学術報告, 人文社会科学論集』11巻, 2号, 2003.3, p.31より抜粋。

渡邊が授業内容に対する評価と授業への全体的満足度との関係をより詳細に分析するために行った重回帰分析の結果によれば、教員がわかりやすく説明したか、授業の目標や目的が明確だったか、板書が読みやすかったかなどの側面には大きく影響されるが、シラバスに沿って進んでいたか、テキストを有効に使っていたかなどの側面にはあまり影響されないことがわかったという。

- ⁵ 帯広畜産大学大学教育センター『授業における板書・プレゼンテーションの留意点』

<https://www.obihiro.ac.jp/edu-affairs-presentation> (2021 年 9 月 26 日閲覧) より抜粋。

- 6 当該大学において筆者が担当する授業は現時点 (2021 年 9 月) でビデオ会議システムを利用したリアルタイム型授業を継続しており、プレゼンテーションソフト「Power Point」を使用している。

- 7 岡部正隆ほか『色盲の人にもわかるバリアフリープレゼンテーション法』<https://www.nig.ac.jp/color/gen/index.html#nichijyo> (2021 年 9 月 26 日閲覧) より抜粋。

岡部によれば、黒板は濃い緑色であり、色覚異常がある学生にとって赤、青、緑は読み取りにくく、特に赤は背景と同化しやすく、線自体を認識できない恐れもあるという。そのため、黒板での板書の場合は白と黄の 2 色にとどめるべきだという。

参考・引用文献

1. 太田あや『板書をとるノートから点をとるノートへ』<https://39campus.jp/dotmethod.html> (2021 年 9 月 26 日閲覧)
2. 岡部正隆ほか『色盲の人にもわかるバリアフリープレゼンテーション法』<https://www.nig.ac.jp/color/gen/index.html#nichijyo> (2021 年 9 月 26 日閲覧)
3. 帯広畜産大学大学教育センター『大学教育センターにおける板書とプレゼンテーションの留意点』<https://www.obihiro.ac.jp/edu-affairs-presentation> (2021 年 9 月 26 日閲覧)
4. 栗田正行『わかる「板書」伝わる「話し方」』, 東洋館出版社, 2013
5. 剣持勉『プロの板書』, 教育出版, 2013
6. KOKUYO『神ノートの作り方』<https://39campus.jp/kaminote.html> (2021 年 9 月 26 日閲覧)
7. 野島高彦『実験ノートの書き方』, 化学同人, 2017
8. 福岡教育大学板書教育プロジェクト編『板書技法と手書き文字文化』, 木耳社, 2008
9. 渡邊芳之「学生の授業評価を規定するものはなにか」『帯広畜産大学学術報告, 人文社会科学論集』11 巻, 2 号, 2003.3, pp.27-31